

「ムギ類赤かび病情報」

赤かび病の多発生が懸念されます

令和7年5月16日
埼玉県農林部

赤かび病孢子飛散好適日が過去10年で4番目に多い

本年の熊谷のアメダスデータから推定される赤かび病のう孢子飛散好適日は、4月1日から4月30日まで11日(平年同期9日)であり、過去10年で4番目に多くなっています。

好適日が感染しやすい開花期と完全に一致

特に、4月24日から5月13日までの20日間のうち16日も子のう孢子飛散好適日が出ています。11月下旬以降に播種した小麦では、最も感染しやすい開花期と子のう孢子飛散好適日が完全に一致しています。

今後、多発生好適日が出現

県内各地で、各麦種とも赤かび病に感染した穂を見かけるようになりました。

今後、5月下旬にかけて気温の高い曇雨天が見込まれ、病原菌が増殖しやすい多発生好適日が出現しやすくなるため、本病の急速な蔓延が懸念されます。

		4									5												
		22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
子のう孢子飛散好適日				●	●			●	●	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	
多発生好適日																							
飛散好適日積算 日数(3月28日～)	本年	7	7	8	9	9	9	10	11	12	12	13	14	15	16	17	18	18	19	20	21	22	23
	平年	7.0	7.5	8.0	8.5	8.9	9.5	9.9	10.2	10.2													

(5月以降の積算日数平年値は未算出)

- 子のう孢子飛散好適日：最高気温が15℃以上かつ最低気温が10℃以上で、湿度80%以上または降雨直後
◎ 多発生好適日：平均気温が18℃以上で、前日または当日に降雨があり、平均湿度が80%以上



写真1 小麦の初期病徴



写真2 六条大麦の初期病徴

ほ場の確認及び適期収穫と速やかな乾燥・適正な調製を

被害粒の製品混入や被害の増加を防ぐために、次の作業を適期に、速やかに実施してください。

1. 生育状況の把握

ほ場を良く巡回し、赤かび病の発生や倒伏の状況を確認する。

2. 適期収穫

刈遅れにより麦類が降雨に遭遇すると赤かび病の進展等を助長する原因となるので、適期に確実に収穫する。

3. 赤かび病被害麦の別刈り

収穫前にはほ場を確認し、赤かび病の発生が多い場合や発生ほ場で倒伏が見られる場合は、赤かび病や倒伏の発生していない他の麦とは分けて収穫する。

4. 収穫、輸送時の汚染の予防

収穫機やコンテナ等には作物残さがないよう清掃し清潔に保つ。

輸送時は乾燥した状態のコンテナ等を使用し、急な降雨による水濡れ防止のために覆い等を用意する。

5. 収穫後の速やかな乾燥の励行

収穫後、高温多湿条件で保管すると赤かび病菌が増殖してしまう場合があるので、収穫した麦は可能な限り速やかに乾燥調製施設に搬入し乾燥させる。

特に共同乾燥施設の利用者が荷受け待ちで高温多湿とならないよう、送風機能のあるコンテナを準備するなど、J Aとの対応策を検討しておく。

6. ていねいな調製

被害粒は充実が劣るので、麦種にあわせて適正な篩目を用いて除去する。その際、適正な流量を守ってていねいな作業を心がける。



写真3 小麦発病穂の孢子



写真4 登熟後期の被害穂